

カルマヨガ実践

ヨガのふるさとでの奉仕活動研修ツアー報告

工藤 弘子

10月26日



成田空港より JL787 型機にて定刻離陸。翼の流線が美しい新型機にて、デリーへ向け快適な機中。デリー空港の外では 3 人のガイド？（専用ブタニさん）に出迎えられホテルへ。

10月27日

デリー空港より国内線にてベナレスへ。飛行時間 1 時間 15 分が、1 時間 20 分遅れで離陸。着後ブッタが初めて説法したサルナート見学とヨガ研修・瞑想。



野生司香雪の壁画
お釈迦様の一生



ムールガンダ・クティール寺院



釈迦の像

10月28日

ベナレス



早朝、日の出前にボートでガンジス河へ。間もなく真っ赤な太陽が昇り始め、荘厳、水面に映えるコントラストが何とも美しく、自然の営みを強く感じる。

川辺では火葬が行われたり、沐浴する方、洗濯に励む方、観光客等たくさんの人...人...人...

舟をこぐ船頭さんは大ベテランで、水しぶきどころか水滴ひとつ出さず、見事な腕前。

ガンジス川の日の出

予定外ながら、ヒन्दゥー教の寺院へ行きましたが、警備が厳しく、小銃を持った警察官が立ち、ボディチェックされ、一切物を持たずに外から眺めるだけでした。

ご老人の方々が暮らしておられる施設へ（ここはすべてヒンドゥー教の方々）

この敷地の門を入るとすぐにサンスクリット語の学校（お坊さんの教育）、これは経典がサンスクリット語なので、この言葉が理解できないと修行が無理とのことでした。そして修行僧の寮、お坊さんの寄宿舍、旅行者の宿泊所となっており、修行に関する費用はすべて無料だそうです。



その後方に入居の方々がおられる施設がありました。入居は60歳からで日常生活は一般と変わらず、炊事・洗濯等もご自分でされ、病気で動けなくなったときは、施設が食事を提供する。（食は100%ベジタリアン）看病はご家族・親戚の方々がされる。現在60名が入居され、待機が150名程で南インドからの申し込みもあるそうです。

高齢者施設

訪問させていただいたときの入居者は、近くを歩いたり、のんびり寛いでいたり「時」を楽しんでおられるようでした。

ガンジス河の近くで「死」を迎えることが人々の願いであり、それを叶えてくれるのがこの施設の様です。

10月29日

ベナレス～ブッタガヤ

車にて移動、予定時間8時間でしたが、高速道路ができたのと、ロス時間がすくない、ドライバーの運転が本当にうまいことが重なり、5時間で到着。

釈迦が悟りを開かれたブッタガヤは今も世界中から僧たちがこの地を訪れ修行を行っている。



カリंगा池



大塔



お釈迦様が悟りを開かれた菩提樹
(3代目)

骨と皮だけになりながら心身を苛め抜いた釈迦だが、この方法で苦しみを脱することはできないと感じた彼は、6年間続けていた苦行を中断する。

蓮池はお釈迦様が沐浴された場所といわれ、池の中の台座で冥想されているお釈迦様の後ろには、大蛇が首を上げ開いてお守りしている。

お釈迦様が悟りを開かれた後の釈迦像の顔は、柔和であり表現のしようもないほど穏

やかで美しく、いつまでも見ていたい気持ちにさせられました。

信者の方々は大勢お参りに訪れており、それぞれの形で静かに祈っておりました。

大塔近くに瞑想（有料）する場所があり、人もいなく静かでキレイ。ここでヨガ、瞑想をする。

10月30日

印度山日本寺



教室でローマ字の点検中



本堂での朝礼

幼稚園（ぼだいじゅ学園）・診療施設（光明施療院）は印度山日本寺と言われる敷地内にあり、日本の仏教団体の方々により設立されました。日本からのお坊さんは2年交代。

幼稚園＝入園児は4歳から6歳まで、入園条件は3つあり、

- 1：お寺の近所に住んでいること、
- 2：親が教育費を出すことができない、
- 3：宗教にこだわらない。

幼稚園は日本式で、年長・年中・年少が各2クラス（花の名前）、園にいる時間は8時半から12時、お昼をいただいてから帰宅。火・金曜は寺院にて朝礼、パーリー語でお経を唱え、仏教の教えを聞く

年間行事は運動会・お遊戯会と日本の幼稚園と変わらない。

先生はインドの方でローマ字、算数、絵本読み、お絵かき等子供たちはとても元気で、先生を囲んでいる。

子どもたちが描いた絵は紙いっぱい大きく伸び伸びと書いているのが印象的でした。

折り紙・風船を持参し喜ばれる。インドの子供たちは折り紙が大好き、それは1枚の紙がいろんな形に変わるのが楽しいのだそうです。教材は日本のものが優れているので、日本から取り寄せているとのこと。

ここに通う子供たちが少しでも教育を受け、収入につなげることができるようにすることが目的と聞かされました。一生で教育を受ける期間がこの幼稚園だけの方もおられる。



光明施療院：1970年代青空診療から始まり、1985年に出来た施設で患者総数100万人に達する。毎日300人近い患者さんが朝早くから列をなし、20キロもの遠くから歩いてくる人もいる。重症の患者は一応の治療した後、大病院を紹介する。

光明施療院内部

男性は薬剤、女性は受付を担当

ぼだいじゅ学園、光明施療院ともすべて無料。

壁には患者さんの状態のグラフ等がはられ、熱心な取り組みがわかります。

午後は寝台列車に乗るためパトナ駅へ向かいましたが、悪路と土埃、大型トラックの駐車、あまりの人の多さのため村々での大渋滞、これらを車窓から観察する。

5時間後パトナ駅へ着きましたが、予定の寝台列車がその時で9時間遅れであり、まだ遅れる可能性があることが解り、急遽予定を変更し車にてベナレスへ向かう。7時間後にベナレスのホテル到着。（かの寝台車はデリーに12時間遅れで到着）

10月31日

ベナレス空港から国内線にてデリー

午後は予定の見学コースへ。

各国の大使館が立ち並ぶ官庁街・高級住宅街等、さすが国土が広いインドはどこを見てもゆったりして、大樹が多く自然にリラックスできる。道路も広く真直ぐどこまでも続く。



大統領官邸



インド門



官邸正門扉



フマユーン廟

インド門は第1次世界大戦、戦死者の慰霊碑で戦死者の名前が刻みこまれている。フマユーン廟は世界遺産であり、王のためにお妃が建てた廟。その前にある芝生の上でヨガ・瞑想する。

リキシャー体験は諸事情を考え取りやめとする。夜インド舞踊鑑賞



予定外でしたがガンジー首相が暗殺され、火葬されたこの場所へ、常にお参りの人と灯明は絶えることがない。当時何もなかったそうですが、今は公園となり芝生が植えられ、きれいに整備されております。園内は土足禁止であり、靴は入り口で預けます。

ラージ・ガート

11月1日

昨年のガイドであるパンカジさんがホテルに見えられ、GIRI SECONDARY SCHOOLへ案内していただく。

到着後、校長先生はじめ諸先生・職員の方々と、ごあいさつを交わし再会を喜ぶ。今年の折り紙は「紙ヒコーキ」「せみ」の2種類にする。

事前の用意として、一つ一つの折り方を目で確認してもらった方が判りよいと思いましたが、その様に見てもらってから折り、次の折る部分は折ったものを見てから、折ってもらうを繰り返した。早い子はすぐ折ることができる。



5, 6歳のクラスで「紙ヒコーキ」

真直ぐ折るのはいいのですが、三角折り・折った部分を開くは難しいようでした。出来た紙ヒコーキをみんなが飛ばす。

外で飛ばすともっとよく飛ぶこと、皆が大きくなりましたら飛行機では是非日本に来てほしいと話す。「OK」の元気声に嬉しさいっぱい。

6, 7歳のクラスで「せみ」

せみはインドにもいるそうですが、ガイドさんが名前を思い出せない。

日本では夏の短い期間だけ生息することを話す。

子どもたちはよく折ってくれますが、難しいところは折ってほしいと言われ、いつの間にかしっか子子供たちに囲まれている。みんな上手に出来上がり～

もっと折りたいという希望で今度は鶴に挑戦。

お昼時間になってもだれも止めようとせず、時間少し延長していただきましたが、完成までにはいたらず残念、後は先生に折り方の図を渡しお願いしました。

人懐っこい子どもたちの無邪気な姿と笑顔は心を和ませてくれます。

先生方の温かいおもてなしと子供たちに感謝しながら、お別れいたしました。

今回もたくさんの方の協力を得、出逢いがあり、心が豊かになり疲れを感じることもなく素敵な良い旅でした。

多少のアクシデントはインド旅行に珍しいことではなく、すべてプラス思考で捉えることができたのは、周りの方々の協力と親切心のお蔭であり、感動と感謝で満たされ無事に旅を終えることができました。

今回の奉仕活動研修ツアーに心を寄せられ、力となってくだされた皆さんに心よりお礼申し上げます。

ありがとうございました